

# HO YOG

## 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
[編集] 教区基推委広報部

2009. 2 157号



法要での焼香の参詣者

# 大震災総追悼法要を厳修

## 満堂で上田紀行氏1・17いのちの研修会

六五〇〇名以上の尊い人命を奪った「阪神・淡路大震災」から十四年目を迎え、本年も本願寺神戸別院で「阪神・淡路大震災物故者総追悼法要」

が勤修された。震災で亡くなられた方々を偲び、別院本堂が参拝者で満堂となった。午後一時半に行事鐘が鳴り響き僧侶の入堂による法要が始まり、正信偈のお勤めに併せ参拝者全員のお焼香が行われた。法要終了後、松村彰道神戸別院輪番は挨拶の中で「被災者の方々も十四年経ったのだからもう普通の生活をされているの

に必要事項をご記入の上、教務所宛ご送付ください。内願法名を希望されない方は6/1(月)までにお申し込み下さい。【宗報偶数月号綴じ込み用紙(内願用)】

り法要が始まり、正信偈のお勤めに併せ参拝者全員のお焼香が行われた。法要終了後、松村彰道神戸別院輪番は挨拶の中で「被災者の方々も十四年経ったのだからもう普通の生活をされているの

てなりません。そのため本日、追悼のご法要をお勤めさせていただき、これから先もその悲しみの中におられます方がおられる限り、このご法要を勤めさせていただきたいと思うことであります。震災で亡くなられた方のご遺族はこの法要でお慰めいただいていることであると想われますし、その追悼のためお越しいただいたことでもありましようが、私どもは仏の教えをもってその心を慰めたい、癒したいの思いでございます。考えてみますと皆さまは亡くなられた方のお導きによりお参りいただきました。

それは、亡くなられた方の導きの姿がここにあってではないかと味あわせていただいたことでもあります。」と述べた。

挨拶の後、午後二時十五分からは、宗門関係学校の協力のもと「いのち」をテーマとした作文の朗読が行われた。兵庫大学から川崎圭子さんが、日々のなにげない生活の中より、何に私が支えられて



元禄十六年、加賀の松任村に生まれた千代女も、松尾芭蕉の「おくの細道」以来、庶民の間にも俳句が広まり、千代女もいつしか心ひかれつつあった十七歳のとき、各務支考と出会い、弟子に与った。支考も旅の途中であり、一度はこれを断つたのですが、是非にと重ねて頼むので、「それでは(ほと)ときと一句を」といわれ、千代女は弟子になりたいたい思いから、いろいろと思案し、立派な句をと思えば思うほど、納得がいく句ができぬうちに夜が明けてまいりました。◆千代女は、加賀の聖興寺(大派)のご門徒で幼い頃から両親とご法座に通っており、「そのまのお助け」「計らいをすてよ」と聞かされていたことに、「ふと思ひあたり、今のありのままの状況をそのままに」と「ほととぎす、ほととぎす」とて明けにけり」と詠まれました。勿論、支考は喜んで弟子に加え、その後の千代女の俳人としての活躍はご承知の通りです。◆五十歳のとき得度し、法名を「素園」といただき、七十三歳の生涯を終えるまで、お念仏一筋の妙好人であったのです。自分の信じる宗教の教義が毎日の生活の中で生かされている例として、私の大好きな話の一つです。

多紀組 専福寺 松島法城

## 教区だより 2月・3月

### 2月

- 1日(日) 若婦人の集い 10:30  
ビハーラ全国集会 本山
- 2日(月) 第7回布教大会 10:00  
青僧会役員会 16:00
- 4日(水) キッズサンガ養成研修会 (5日まで本山)  
本派矯正教化連盟大阪管区支部研修会 (15日まで津村別院)
- 7日(土) まことの保育研修会 13:30  
別院仏教婦人会常例法座 13:30  
如月忌・仏婦総連盟評議員会 本山
- 8日(日) 連履履修者研修会 10:30
- 9日(月) ビハーラ泊研修会(10日まで)
- 14日(土) 近畿ブロック仏青連盟研修会(15日まで香川県)
- 15日(日) 別院常例法座(16日まで) 13:30
- 18日(水) 青僧会裁判員制度研修会 13:00  
ビハーラ役員会 14:00
- 19日(木) 現生正定聚講師団研修会 10:30  
僧侶研修会 13:00  
第3連区青年布教使研修会 (20日まで奈良)

- 20日(金) 組長ブロック長会 14:00
- 21日(土) 第3連区門推研修協議会 (22日まで京都)
- 23日(月) 近同推会員研修会 滋賀教区
- 24日(火) 常備会 13:30
- 27日(金) 布教使研修会 10:30  
近畿ブロック仏青連盟冬季研修会(3月1日まで長野)

### 3月

- 1日(日) 寺婦・仏婦コーラスフェスティバル 10:00
- 5日(木) 近畿地区議長・組長会長・所長合同会議 15:30
- 7日(土) 寺院子弟合同研修会 (8日まで名古屋)  
仏壮第3連区連絡協議会 15:00  
別院第1土曜仏教講座 13:30
- 8日(日) 仏壮寺院代表者研修会
- 9日(月) 保育理事会主任代表者会 14:00
- 11日(水) 門信徒会運動研修協議会 13:00
- 12日(木) 近畿仏婦連絡協議会 (12日まで滋賀)  
キッズサンガ連区協議会 (13日まで京都)  
寺婦研修旅行 (13日まで東北)
- 15日(日) 別院常例法座(16日まで) 13:30

## 新門様 6月17日教区へ

親鸞聖人七五〇回大遠忌のお待ち受け機運の高揚とご法要の円成を期して、次代の法灯を継承される新門様が全国の別院をご巡回され僧侶、門信徒との交流を通して、さらなる宗門の発展を期する機縁として、6月17日神戸別院をご巡拝されることが決まりました。

### 帰敬式実施のご案内

- 一、期日 6月17日(水)
- 二、時間 11:15
- 三、場所 神戸別院本堂
- 四、集合時間・場所 10:30までに別院3階総会所にお越しください。
- 五、内願法名申込み期限 4月17日(金)
- 六、内願法名申込み方法 宗報偶数月号の綴じ込み用紙(内願用)

## 敬 弔

- 左記の方がご逝去されましたので謹んで敬弔の意を表します
- 武内紹晃(阪神西組浄専寺住職) 平成20年10月25日87歳
- 藤本幸代(播磨中組安養寺坊守) 平成20年10月28日72歳
- 吉本郁子(阪神南組稱佛寺坊守) 平成20年11月14日83歳
- 山下智章(揖龍西組順正寺住職) 平成20年11月14日52歳
- 和智智浄(揖龍東組源徳寺前任住職) 平成20年11月17日86歳
- 杉山やちよ(宍粟組名源寺前坊守) 平成20年11月20日94歳
- 廣岡美智子(播磨東組安楽寺坊守) 平成20年11月27日82歳
- 若宮章隆(多紀組尊寶寺住職) 平成20年11月27日71歳
- 福本大遠(阪神東組福円寺前任住職) 平成20年11月28日98歳
- 岩田豊信(養父組安養寺住職) 平成20年12月4日44歳
- 杉本シトミ(阪神南組照蓮寺前坊守) 平成20年12月31日98歳
- 安野久代(姫路東組明源寺前坊守) 平成21年1月1日83歳
- 金川正子(城崎組眞光寺前坊守) 平成21年1月14日95歳
- 佃 雁南(高砂組玄長寺前任住職) 平成21年1月17日80歳
- 鳥居大栄(出石組西光寺前任住職) 平成21年1月26日82歳

### 国立療養所 長島愛生園 邑久光明園で50周年の集い

岡山県邑久町にある国立療養所・長島愛生園の西本願寺会館(真宗会館)と、同・邑久光明園の西本願寺会館が、昨年共に建立50周年を迎えた。

勤行では、松村彰道兵庫教区教務所長が表白で「ともにいのちかがやく社会の実現に向かって、我々の過去を慚愧し、ハン

平成20年12月18日ご門主様ご臨席のもと、午前長島愛生園の門徒で組織する真宗同朋会(鈴木幹雄会長)が、午後には邑久光明園の門徒で組織する真宗法話会(吉田藤作会長)が、それぞれの会館で記念の集いを開いた。

この集いは、兵庫教区基幹運動推進委員会が協賛、両園で毎月法座を開いている十方会と赤穂南・岡山南の両組が協力し、一般の方にハンセン病について正しく理解してもらい「心の壁」を取り除いてもらおうと企画。主に近畿周辺の僧侶・門信徒が参拝に訪れ、共に50周年の喜びをわかちあつた。

またご門主様はお言葉で「み教えの大事な点はすべての人が分け隔てなく救われることにあります。御同朋・御同行として今日の社会問題に光を当てる大切な意味がある。理解は、進んでいるが、課題が多くあります。少しでも前進できることを願う」と述べられた。

随行長の宮崎憲之総務は「今後も宗門として、ハンセン病についての正しい理解が得られるよう活動していきたい。ここでご往生された方々のお

りあげて行きたい、世界に発信して行きたいと1月17日この日を機縁に話させていただきました」と締めくくられた。

閉会の挨拶に立った、大西耕雲教区基推委副会長は、「私たちは震災から十四年という年月を経た中で、仏教を通して、あるいは念仏者としてどのようなことを日本の国民の人たちに、あるいは国際的に世界の人たちに発信してきただろうと聞かされてきました。今日の上田先生の話から改めて自身の啓発をされた思いであります。一人ひとりの今日の法要を教訓として今日の法要で聞かせていただいた事を教訓として私の生き方の上にとのようにならざることを祈ります。世の中さまざまな社会問題に対して私には関係ないと思うのではなく、その社会問題の中にこそ信心があると思いを大切にしながら、念仏の輪を絆としていくよう本日の講演より思わせていただいた」と結ばれた。

あつた地にボランティアへ行つた学生を通して、これからの日本に大切なものはお金でも肩書きでもなく「癒し」であること、を再認識したこと、人が生きる意味は癒しのある人生から生きがいを感じることであると話された。「がんばれ！仏教」を書いたのは、いのちの尊さを伝えていくために、仏教の存在がどれほど大切であるか、どれだけいのちの尊さを伝えるためにならば知っているお寺があるかを知って欲しい、との願いがあつたこと、これからは説く仏教から聴く仏教になるべきではないか、と話された。

また、自身が出会つた僧侶より学んだことを話され、最後に「よき種を未来に對し蒔いていくのが仏教です。私たちが考えなければいけないことは、私たちが慈悲ということから行動していく、そしてそうした仏の道からの行動を示していくことが、亡くなった方々への一番の法要になるのではないか、よき日本を創

いるのかを詩にして朗読され、須磨ノ浦女子高等学校から前本郷子さんが、家族との絆、友人からの支え、また地球の中に生かされていることを感じ、自分の日々が常に周りの多くからの支えによって成り立っていることへの感謝の気持ちを朗読された。

午後二時四十五分からは、阪神・淡路大震災で亡くなられた方々の命の日であり、その悲しい過去より「いのち」について考えて欲しいとの願いから毎年「1・17いのちを考える研修会」が行われている。



研修会で講演される上田氏

### 宗祖のご遺徳を偲び 別院報恩講修行

平成20年11月27日より同29日までの3日間、神戸別院報恩講法要が修行された。

例年のように教区内の寺院に法要出勤を依頼し結衆、列衆、讃嘆衆・

奏楽員など約120名のご出勤をいただいた。

法要は、27日、速夜法要「大師影供作法」28日、日中法要「奉讃大師作法」同、速夜法要「五会念仏作法」29日、日中法要



一階ホールで熱演の三浦さん

「正信念佛偈作法第一種」が勤められ、28日速夜法要では行道が依用された。法話ご講師は大阪教区讚良組自然寺加藤順教師に「現生正定聚」を講題にお話いただいた。

また、28日速夜法要後に、大分県東南落語組合所属、三浦芳行氏による落語の席がもつられ、大盛況のうちに幕を閉じた。

### 別院で初の帰敬式実施

別院における新たな活動として、報恩講を機縁に別院の本堂で初の帰敬式が執行された。

この度の帰敬式に際し、教区内全寺院に受式



別院本堂の帰敬式

者募集のご協力をいただき、52名のご門徒の方々が受式され、佛祖の御前で帰敬の心をあらわし、浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにされた。

係員が来院、導師がご本尊前にて焼香の後、三帰依文を唱え受式者の方々も導師に続き一句ずつ同じ御文を唱えた。

名拝受、帰敬文の拝読をそれぞれ行っていた。導師が教諭を述べられ式は終了した。

式の中、青蓮院での宗祖の御得度が夕暮れ近くに行われたとの古事に倣って堂内の照明を、内陣の輪燈、菊灯、金灯籠を中心に全体を暗くしました。このため普段とはまた違う雰囲気があり、現代のように照明器具が発達していない頃の本堂(儀礼空間)を見せていただきたよう深い感銘を受けました。(筆者)

### 立華研修会開催のお知らせ

立華の研修会を開催いたしますのでご参加ください。詳しくは案内いたします。

- 一、期日 平成21年3月4日
- 二、時間 14:00
- 三、場所 神戸別院1階ホール
- 四、研修費 500円
- 五、人数 先着30名
- 六、講師 水本敏雄氏(本願寺開明社花新社長)

お申し込みは教務所まで



28日大速夜法要



長島愛生園での帰敬式

心を受け継ぎ、二度とこのような無知と無関心による過ちの歴史を繰り返さないことをお誓いし、ともにお念仏を申させていただきます」と述べた。会長が謝辞を述べ、長島愛生園では鈴木会長が「高齢化が進み、このような催しは最後になる

いただければ幸いです」と語った。

両集いの前には、会員たちの希望によりそれぞれ帰敬式が行われ、合わせて46人が受式。

邑久光明園では会館での式に参加できない人のために、ご門主様が寮をご訪問され帰敬式が行われた。

両会館は、御堂建立を願う両会会員たちの多大な苦勞と懇念により、1958年に親鸞聖人700回大遠忌を記念して建設。長島愛生園では、会員自らが山際の土地を切り開き埋め立てて会館を

建立した。

愛生園では約3分の1の光明園では約2分の1の入所の方が会員となっているが、現在では平均年齢が80歳を超え、参拝者も急速に減少しているという。参加した会員は

「病気のことはつらいけどだが、先人のお導きでお念仏にであえた。人間に生まれてきた喜びを感じています」「毎朝夕おつとめしています。亡くなつた主人がいつも見護つていてくれると感じ、生きる依りどころとなつています」とお念仏の喜びを語っていた。



邑久光明園 真宗法話会 吉田藤作会長謝辞

## 全国仏教壮年大会 兵庫で開催

「現生正定聚」をテーマに第19回全国仏教大会開催された。

北海道から沖縄まで、全国の仏教4500名が一同に兵庫に結集した。

開催教区である兵庫教区からは、半数を超える2300名が参加した。

大会は11月の2日神戸市・ポートアイランドのワールド記念ホールで、ご門主様ご臨席のもと開かれた。

開会式では、大会旗に先導されご門主様が入場し、続いて31教区1特区の代表者が連盟旗を掲げ入場した。

雅楽の演奏が始まると近畿6教区の代表者が献灯・献花・献供をして、御本尊を荘厳した。

勤行では兵庫教区の代表者5名が調声・讃嘆衆となり4500名が一同に正信偈を称えると会場に響わたった。



各教区の連盟旗入場

勤行後、ご門主様のお言葉の中で、「社会的責任の大きい世代である仏教は職場や地域、家庭において多くの苦悩や困難を経験されています。

その豊富な知識や経験を活かして人々と悩みや思いを共有し、さまざまな現代の諸問題の解決、次代を担う人々の育成に積極的に取り組んでいた

「後「今大会を契機に各地で壮年会活動を力強く展開して下さることを念願します」と述べられた。「各教区の取り組みと課題」と題した意見発表では、各連区を代表して、山中長一郎・東京教区仏壮理事長、平田忠彦・岐阜教区仏壮副理事長、平井孝彦・兵庫教区仏壮理事長、山根明弘・山口教区仏壮理事長、鳥飼睦夫・福岡教区仏壮前理事長の5人が発表。

それぞれ教区独自の取り組みやマンネリ化や組織率の向上などの問題点など挙げられた。

兵庫教区では、「全ヶ寺を対象に壮年層の門信徒を3名の方を提出していただくようお願いしたことが研修会や大会への参加者の増加につながった。」という意見や「組内の取り組みとして総代会、仏婦や仏壮の必要性をうったえた結果、仏壮を結成できた。」という意見もだされた。

また、他教区では「教区基幹運動推進委員会に



ホールを埋めつくす4,500名の仏教壮年

活性化の専門委員会を設けたことで着実に成果が上がりつつある」。若手の理事の増員、研修会はテーマを複数年同一にすることで参加者が急増した」など、5人それぞれが特色ある取り組みを紹介した。なかでも兵庫教区の取り組みについて福岡教区の鳥飼前理事長が

言及され「未結成寺院で3名の代表者がおられるのなら仏壮が結成できるのだから結成率向上へ向けての活動をしていただきたい」と激励をいただいた。

仏壮連盟活動推進講師の高橋哲了氏は「組織が変わると何が変わるのかと連盟化について問われ

ますが、私たち一人ひとりの取り組みが変われば組織が変わっていくのでは」と「まとめ」をされ、藤井邦麿氏は「住職もではありませんが、お寺や教団が私たちに何をしてくれるかではなく、私たちがお寺や教団、そして社会に何ができるのかを考えてほしい。そして、お法りに出遇えたよろこびをプラス1運動として身近なひとに伝えていくことが必要ではないでしょうか」と提言された。

昼食時に、二胡演奏の姜曉艷さんによる仏教讃歌の演奏で昼休憩時間のひと時、和ませてくださいました。



正信偈をお勤めする調声・讃嘆衆

午後から、森田眞円京都女子大学教授が記念法話され、「(なもあみだぶつ)が私を貫いてくださって護っていてくださるから、どのような苦しみの中にも支えられてきたのだ」と、今まさに阿弥陀如来の救いのはたらきの中にあることをお話しされ参加者は深い感銘を受けた。

続いて「小沢昭一的節談説教のころ」と題して「板敷山」を小沢さんがユーモアを交えて披露された。終盤の、かつては親鸞聖人を殺そうとしていた弁円が、今は、帰り待ちわびている段の「山も山 道も昔に変わらねど 変わり果てたるわがころかな」と詩を詠む場面では、会場が静まり返り感動的な一瞬であった。

引き続き大会宣言文が平井大会実行委員長から読み上げられ、仏教壮年会連盟が力強い一歩を踏み出すことが宣言された。

閉会式で今大会会長の松村彰道兵庫教区教務所長は「私たちの賜りまし



二胡演奏

た信心が、その生活の中で何らかの形で発露されていく、そのことが混迷の時代を生き抜く灯火となるのでは」と言及し、それには「兵庫教区が教区教学テーマに掲げております(現生正定聚)いま まさに 仏の智慧を得たなかま」という願いを発信していくこと」と閉会の挨拶で述べた。

今大会は、全国仏教壮年会連盟結成後初の全国大会だが実質的に前身の全国仏教壮年会義が準備を進めてきた最後の大会であるため、来年度に本山において仏教年会連盟結成記念の全国大会が開催される予定である。